

学会集報

〔昭和四十八年度〕

◎日本印度学仏教学会

五月五日六日の両日にわたり、第二十四回日本印度学仏教学会学術大会が、九州大学において開催された。九州大学での開催は初めてであったが、部会に分れて盛会であった。本学らの研究発表者は次の通りであった。

一、中論の記号論理学的解明

里見泰穂

◎日蓮宗教学研究発表大会

第二十六回日蓮宗教学研究発表大会は、十月十九日・二十日の両日にわたり、本学を会場としておこなわれた。今回は身延山開闢七〇〇年に相当しているので、これを記念し、三十名が、それぞれの立場から研究発表をおこなった。本学関係の発表者は次の通りである。

一、身延山論

室住一妙

一、宗祖の方位について

宮崎海優

一、日蓮聖人にみる人間観

町田是正

―懺悔することの意義―

一、身延山支院の研究

林是晋

(一) 宿坊

尚、第一日目の午後五時より、本学に於て懇親会を開き終始なごやかな中に親睦を深め有意義であった。

◎日本仏教学会

十一月十日・十一日の両日にわたり、日本仏教学会学術大会が、京都女子大学で開催された。今回の共同研究テーマは、「仏教々団の諸問題」で、加盟大学から三十名の研究発表がおこなわれた。

本学らの研究発表者は次の通りであった。

一、日蓮教団における法難の問題

上田本昌

◎公開講演会

昭和四十八年十一月十九日、本学において東京大学物療内科の高橋暁正博士を講師に招いて、公開講演会が開催さ

れた。

「現代科学と宗教」と云うテーマで、主として薬品公害や食品公害の問題をとりあげ、「人間の作ったヘドロで人間が自滅しようとしている現実は、仏教で説く因果応報によるものである」と、厳しい警告を与えた。

イタイイタイ病・四日市ゼンソク・水俣病その他の工場公害や、サリドマイド・スモン病等その他の薬品公害など現代人の生活をおびやかす諸問題にも言及し、今こそ人間が人間らしく生きられるようにみんなが努力しなくてはならないと述べ、「自然の破壊はすべての生類の破壊を意味する」として、宗教者の役割も又大きいものがあると論じた。

当日は本学の教職員・学生はもちろん、町内近隣の婦人会員を始め一般の聴衆も多数あつまり、会場は満員の盛況であった。

同窓会全国大会開催

宗祖身延御入山七〇〇年を記念し、本学園の同窓会全国大会が、去る十月十八日午後一時から盛大に挙行された。

同窓会大会は昭和三十七年十月五日に、「学園五〇周年

記念大会」が開かれ、全国から百数十名の同窓生が集り、永い間の宿願であった「校舎建築」の件が議題にのぼり、一同協力を決議したが、その後、昭和四十二年九月三十日に、現在の新校舎落成を記念して、「同窓会有志大会」を開催した。

それ以来、六年ぶりに全国大会を開くこととなったわけであるが、その間、本学においては、体育館の新築を見、また四十二年十二月には同窓会々長として永年にわたり、母校の発展に尽力された前学頭松木本興先生が遷化されるなど、明暗があったが、身延山開闢七〇〇年祭を記念し、更に学寮「厚德寮」が、老朽化した為に、新しく鉄筋二階建の、モダンな「行学寮」として、生れ変わり落成したのを記念して、同窓会の全国大会を開くことになったのである。

当日は正午から大学の正面玄関で受付が開始されたが、それに先き立って午前十時から、地元山梨県の同窓会県支部の会合がもたれ、前支部長樋口是端師遷化により欠員となっていた支部長を始め、支部役員の出出がおこなわれた。その結果、新しく山梨県支部長に池上要輝師が選出され、就任した。

又「和身会」も、特に此の大会のために、総会の日時を

変更し、合流して戴き、本大会を盛り上げて下さった。
午後は一時から参集した同窓生一同七十余名、新装成った「行学寮」を見学し、二時から本山仏殿での同窓生物故者法要に出席。法主望月日雄親下大導師のもと、厳かに法要がとりおこなわれた。

終って大学二階の大教室において、同窓会大会に入った。玄題三唱で始り、地元山梨支部幹事の長谷川寛慶師が司会で、開会の辞を述べ、学長望月日雄親下の挨拶に続き室住一妙学頭の挨拶があつて、本山経理部長斉藤嶺運師の行学寮新築に関する経過報告があつた。費用四千四百万円同窓生の「和身会」から五十一万八千円の寄附があつた。中里日応師から、今回の大会を開くまでの経過報告があり、議事に入った。

- ① 座長推挙——東京の新川日見師が座長に推挙された。
- ② 同窓会本部会則(案)の審議——慎重審議の結果、一部修正して可決。
- ③ 役員選出の件——各地区から選考委員が出て、別室で協議した結果、次の通り新役員が選出され、全員一致賛成した。

◎同窓会役員(正副会長)

会長 瀧上 恵 教師(横浜市)

副会長 池上 要 輝師(山梨県)
同 松井 大 周師(静岡県)

(※理事・幹事・監事・顧問については、「同窓会々報」に詳細報告されるので、此の欄では紙数の関係上省略す。)

④ 其の他——山梨県の松岡堯雄師より、四年制大学への昇格を要望する案が出され、全員賛成。本山当局へ「要望書」を提出することに決つた。

又各地区に支部を結成して、「名簿」を新しく作成すること。会費は入会金二千円。年会費千円とし、会費千円の中から五百円を支部の費用にあて、五百円を本部へ送金することに決つた。

尚、時間の都合で、母校愛にもえた意見が多数あつたが次の機会に協議することとして、閉会した。一同西谷の本行坊へ向い、懇親会を行つて有意義に大会の幕を閉じた。大会の詳細にわたる経過は、「同窓会々報」に発表されるので、ここでは概要を記しておくにとどめた。

(上田本昌・記)

◎永年勤続者表彰

去る昭和三十七年秋の「学園五〇周年記念大会」の折り

に、本学永年勤続者として、松木本興師・室住一妙師・里見泰穂師・林是幹師・中里日応師・疋田英肇師・飯沼竜遠師・坂本日深師が表彰された。

今回、身延山開闢七〇〇年を記念し、永年勤続者として二十年以上に及ぶ次の各師が、三月二十八日付で、学長である法主猥下から表彰された。

○今回の永年勤続表彰者

長谷川 寛 慶 師	秋 山 智 孝 師
堀 一 勇 師	長谷川 義 浩 師
高橋 堯 昭 師	町 田 是 正 師
上田 本昌 師	以上七名

— ◆
お 願 い ◆
—

◎本誌は「会員制」となっております。会費は年額千円です。発行のつど同封の振替用紙をご利用の上、ご送金願います。

◎お知り合いの方々の中で、まだ入会されていない方にはぜひ御入会下さるようお勧め下さい。よろしくご協力の程、お願い申し上げます。